



以森伝心

No.
45

前理事長 柏原康夫 筆

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

退任のご挨拶

公益社団法人京都モデルフォレスト協会 前理事長

柏原康夫



新理事長インタビュー



SDG sの普及を追い風に、
森林づくり活動への理解、参加の
すそ野を広げる

公益社団法人京都モデルフォレスト協会 理事長

安藤孝夫

退任のご挨拶

公益社団法人京都モデルフォレスト協会

前理事長 柏原 康夫

京都銀行 名誉顧問



会員の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、私儀、7月1日をもちまして理事長を退任させていただきました。

皆さまには、京都モデルフォレスト協会の理事長として14年間にわたり、モデルフォレスト運動の推進にご理解、ご協力をいただきましたことを心から感謝いたします。

また、京都府や市町村の皆さまをはじめ、府民参加の森林づくり活動に参加いただいております、企業・団体、地域の森林づくり活動組織、ボランティア団体などの多くの方々にも厚く御礼申し上げます。

皆さまと共に取り組んでまいりました京都モデルフォレスト運動ですが、発足当初は、「モデルフォレスト」という聞き慣れない言葉の意味や目指す目標などを機会あるごとにお話しさせていただき、共感の輪づ

くりに懸命に取り組みました。

発足の翌年には、運動の先導役とも言える11の企業・団体の参画を得て、森林づくり活動がスタートしました。

以降、国民的な地球環境への関心の高まりの中で、運動への参画の輪が徐々に拡大し、現在まで50の企業・団体の他、地域の森林づくり活動組織を含めて延べ200を超える企業・団体等の参画と、年間2万人を超える府民の皆さまの参加を得る運動にまで広がることができました。

森林づくりへの高い志を持つ皆さまとともに、一つ



2009年12月 日本の森を守る地方銀行有志の会
左)「日本の森を守る京都サミット」
国際会館でのサミットの様子
下) 下鴨神社内の「糺の森」での記念植樹の様子



一つ積み重ねてきた地道な活動が着実に成果となって現れてきたことに、深い感銘を覚えます。

京都モデルフォレスト運動に関わらせていただきました14年間、それまでの人生では得られなかった貴重な経験や出会いをいただいたこと、そして、森林をはじめとする自然環境への畏敬と感謝の思いを強くすることができたことは、私の財産となっております。

森林づくり活動協定の調印式で、様々な企業・団体や地域の皆さまとお話しできたこと、緑の少年団の皆さんと一緒に「緑の募金」の呼びかけや記念植樹を行ったこと。全国から地方銀行全64行のトップが集まり「日本の森を守る京都サミット」を国立京都国際会館で開催し、下鴨神社境内で記念植樹したこと。カナダを訪問し国際モデルフォレストネットワークをはじめ森林関係の方々との出会い、広大な森林を体験できたことなど、すべてが忘れられない思い出です。

こうして、今日まで京都モデルフォレスト協会理事長の職を務めることができましたのも、会員の皆さまをはじめ、協会役員の皆さま、京都府をはじめ行政や関係団体の皆さまのご協力の賜物であり、あらためて深く感謝申し上げます。

これから、新たに理事長に就任されました安藤孝夫様のもと、京都モデルフォレスト運動がスタートいたします。

会員の皆さまには、これまで以上にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、運動がさらに幅広い府民の皆さまの参画を得て発展いたしますことを、心から祈念いたします。

結びに、会員の皆さまのご健勝と、京都モデルフォレスト協会のご発展を心よりお祈り申し上げまして、退任にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。



2019年9月 一般財団法人三洋化成社会貢献財団との
「森林の利用保全に関する協定」調印式



2007年4月 新緑祭 in 新風館



2013年10月 「京都ふれあいの森」にて モデルフォレスト DAY キックオフイベント

令和2年7月1日付で、柏原康夫・前理事長からバトンを託された安藤孝夫・新理事長。
その「人となり」にふれるべく、
7月中旬、三洋化成工業株式会社本社にてお話をうかがいました。

聞き手：山本英明・公益社団法人京都モデルフォレスト協会常務理事

SDGsの普及を追い風に、 森林づくり活動への理解、 参加のすそ野を広げる。

公益社団法人京都モデルフォレスト協会

理事長 安藤 孝夫

プロフィール

1953年3月7日生
1977年3月
大阪大学大学院工学研究科修了

〈主な経歴〉

- 1977年4月
三洋化成工業株式会社入社
- 1993年4月
新技術・プロセス開発室長
- 1998年6月
取締役 研究本部副本部長
- 2001年4月 取締役 研究本部長
- 2003年6月 執行役員 研究本部長
- 2004年6月
執行役員 国際事業推進本部長
- 2007年6月
執行役員 サンノブコ(株) 代表取締役社長
- 2008年6月
常務執行役員 サンノブコ(株) 代表取締役社長
- 2010年6月
取締役兼専務執行役員 営業第一部門担当
- 2011年6月 代表取締役社長兼執行役員社長(現)
- 2019年9月 一般財団法人三洋化成社会貢献財団理事長(現)

—— まずは、理事長に就任されてのお気持ちを
お聞かせください。

発足当初から14年間にわたって京都モデルフォレスト協会を牽引してこられた柏原康夫・前理事長の後任ということで、重責を感じるとともに、たいへん名誉なことと誇りに思います。

初めて京都モデルフォレスト運動を知ったのは、2009年の当社の創立60周年を迎えるにあたって記念事業を検討しているときでした。記念品のように時間が経てば無くなったり忘れ去られたりするものではなくて、後世に残るもの、次代に引き継がれるものはないかと考えていたときに、ご紹介いただきました。その理念はすばらしく大いに賛同し、創立60周年記念事業として、京都府相楽郡和束町の湯船森林公園において「三洋化成の森」づくりをスタートさせました。以来、毎年、春と秋に森づくり活動を実施しており、家族連れで参加する社員も多く、森林整備活動に汗を流した後はバーベキューで交流を深めるなど、本当に楽しんで参加してくれています。この「楽しむ」はとても大切で、楽しくなければ続けられないし、身近なことがらでなければ問題意識を持って行動することができないと、常々、思っています。

—— 大阪大学大学院工学研究科を卒業、三洋化成工業株式会社に入社と、工学系の分野を歩んでこられたように感じますが、「森林」や「自然」にどのような印象をお持ちですか？

これまで化学の道を歩んできましたし、生まれ育った環境も大阪市内で自然や森林と縁のない都会でした。それゆえに、森林に対する憧れは強く、学生時代には上高地のハイキングコースを巡ったり白山縦走して富山県に抜けたり、京都で言えば「京都一周トレイル」の伏見・深草ルートや北山コース、鞍馬寺散策などはよく歩きましたね。

そうした「森林」「自然」への憧れの一方で、化学に興味を持ったきっかけは、スモッグなどの公害でした。当時、高校生だった私は、晴れているのに周囲の景色が見えない、その現象にも驚きましたが、その原因について先生の説明を聞いて、「化学が原因である公害であるなら、解決するには化学が必要」



と強く思いました。その後、1972年にローマクラブが「人口増加や環境汚染などの現在の傾向が続けば、100年以内に地球上の成長は限界に達する」とした「成長の限界」を発表、大きな衝撃を受けましたね。

現在、新型コロナの感染拡大がさまざまな面で深刻な影響を及ぼしていますが、新型コロナ対策のなかで「都会にいらなくても仕事ができる」と分かったことは、大きな成果だったように思います。東京では「通勤に片道2時間かかる……」なんて普通ですから、リモートワークに切り替えたなら通勤に充てていた4時間を社会貢献や地域活動に充てられるわけです。信州や北陸などに広い家をもって、自然豊かな環境のなかで生活したり森づくりに協力したりできるのです。ウィズコロナ、ポストコロナの社会を考えていくうえで、ぜひ、自然や森林とふれあう時間を取り入れていくべきだと思います。

—— 経営のトップとしてモットーとされていることについて、お聞かせください。

「短期的に考えるのではなくて、長期的に考える」ですかね。世界がどんどん変化しているなかで、昨日正しかったことが、果たして今日も正しいだろうか。新型コロナ禍にしても、去年の冬には誰も想像していませんでした。この「想像」はとても厄介なものでして、想像どおり計画どおりに運ぶことはあまりなくて、実際には想定外のことが発生します。そして、想定外のことが起こったときに、いかにスピーディーに対応するかが大切なのです。

いわゆる「世間の常識」も私は大嫌いです（笑）。世間の常識というのは、ある一定の条件が整っているときに成り立つだけ。条件が変わったら、常識は成り立ちません。よくあるのが、A社さんの取り組みがとても有効だということで自社に取り入れたら、ほとんど効果を発揮しなかったといったケース。A社さんと自社とでは与えられている条件が違っていることを無視して、建物で言えば形状がまったく違う土台に異なる建屋を持ってくるようなもので、うまく合致するはずがない。

別の例で言えば、経営者の仕事のひとつが業績を上げること、株価を上げることなんですが、世間の常識で考えれば、自社株買いすればすぐに株価は上

げられます。でもそれは、短期的な成果でしかない。ほんとうの意味での「業績を上げる」は、社会に貢献することでしか実現しないと思います。例えば、風力発電をはじめとする再生可能エネルギー発電において必須となる、安くて安全なバッテリーを供給していく……。一時的には研究や生産コストが膨らんで利益率が下がるかもしれないが、研究者が夢を持ち自信を持てる社内環境を守ることでポテンシャルが高まり、長期的に見れば会社としての業績が上がり株価も上がっていきます。

そうした意味を込めて、常々、社員に言い続けているのは「幸せになろう！」です。幸せになるためには、まず、一人ひとりが自分らしさを大切にする。それがダイバーシティにつながり、多様な個性が会社のために、自主的にいきいきと働いていくことで、社会に貢献する。

長期的な視野にたって取り組むという意味では、会社経営も森林づくりと共通する部分が多いように感じますね。

—— 今後の展開についての抱負をお聞かせください。

京都モデルフォレスト運動の今後の展開については、SDGs*の理念がヒントになるように感じます。

今ではビジネス界にもすっかり定着したSDGsで、2030年までに達成すべき17の目標はよく知られてきていると思いますが、このうち「森林づくり」に繋がる項目もたくさんあります。例えば、13番目の目標「気候変動に具体的な対策を」では、森づくり活動等による森林の持つ国土保全や防災機能、さらには二酸化炭素の吸収源としての役割など、地球環境に果たす役割の向上に繋がりますし、15番目の目標「陸の豊かさを守ろう」では、まさに森林をはじめとする陸域生態系サービスの保全、回復、持続可能な利用などに繋がります。

今後のモデルフォレスト運動では、私たちの身近にある森林が、京都の豊かな水や自然環境を守っていることをしっかりと伝えていき、誰もが参加できる運動として企業から府民まで、さらに幅広くすそ野を広げていきたいと考えています。

自然災害と森林



写真：京都府提供

京都森林インストラクター会会長

協会理事 篠部 幸雄



コロナ対応下長い間自粛生活が続いていますが、私の家の前には借景の緑が広がっており、緑に対する渴望感は一見無いかのようです。しかし、一年の三分の一は山に出かけていたのに、関わる行事が激減しています。やはり実際に野山に出かけて行って体を動かすのとは何か違います。早い段階で、皆さんが普通に森に出かけてリフレッシュできる状況が戻ってほしいものです。

最近、温暖化の影響かどうかは別にして、日本各地で台風や大雨による自然災害が続いています。85～86年前には京都を大きな自然災害が襲いました。もうこの実体験を記憶に留めておられる方は、ごく少ないと思います。それは室戸台風と京都大水害（鴨川大洪水）です。

1934年9月21日室戸台風は小学校の校舎などをなぎ倒し、また風致地区の樹木の風倒被害は甚大でした。翌1935年6月28日集中豪雨により、鴨川をはじめ各地で洪水が発生し、流材による橋の流出や破損が多数にのぼりました。前年の室戸台風による山地の荒廃と倒木の放置がその要因であると指摘されています。

その時の24時間雨量は、京都府測候所の観測では約270mm、最近の大雨の災害と比較してどうでしょうか。大水害のあとは、鴨川川底を掘り下げる河川改修を行うなどの対策がとられています。

一方最近では、2年前の平成30年9月4日台風21号が来襲、京都周辺の山から鴨川源流にいたるまでスギ・ヒノキの人工林を問わず、強烈な南風により広範囲の倒木をもたらしました。私も一生のなかでこれほどのレベルの倒木被害はあまり記憶がありません。

その後、国・府・市の関係者の援助もあり、道路際など目に付くところの倒木は、撤去・整備されています。しかし奥地で目につきにくいところなどはまだ倒木が放置されています。また後の植林など保全はこれからという所が多く見られます。

これらはつまり、保水力を保ち土砂の流出を防ぐといった森林の災害を防ぐ力が落ちている山が残されているということです。この流域に豪雨が降って、大きな水害が起こってはなりません。時間がかかるとはいますが、さらに森林の回復がすすみ、災害防止の力が復活することを願っています。

「三洋化成の森」づくり



※ 2015年の国連サミットで採択された Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略

事務局からのお知らせ - 活動報告 -

令和2年2月13日

ダイドードリンコ株式会社様からの「緑の募金」に対し感謝状を贈呈

令和元年中に府内に設置された「緑の募金付き自動販売機」の売り上げにに応じいただいた「緑の募金」に対し、感謝状を贈呈しました。

令和2年3月13日

株式会社中央倉庫様からのご寄付に対し感謝状を贈呈

緑化推進活動及び子どもたちへの森林体験学習に対し寄付金をいただいたことに対し、感謝状を贈呈しました。



令和2年5月



子どものステイホーム応援企画実施

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による休校中のステイホーム（自宅待機）を頑張る子どもたちの応援企画として、京都の森から生まれた木工品キットのプレゼントを実施しました。

令和2年6月12日

令和2年度定時総会開催

新型コロナウイルスの感染予防及び感染拡大防止の観点から、最小限の正会員、役員にご出席いただく形で開催。令和元年度決算及び役員の選任がそれぞれ承認されました。

令和2年7月6日

国際ソロプチミスト京都様からのご寄付に対し感謝状を贈呈

子どもたちの森林体験学習へご寄付をいただいたことに対し、感謝状を贈呈しました。



令和2年7月21日

令和2年度第1回森林づくり基金運営委員会開催

企業等からいただいた寄付を原資として府内各地の森林整備を支援する森林づくり基金活用事業について、今年度13件の整備計画が審議、承認されました。

令和2年8月8日

おうちで森とつながろう！夏休み森の教室開催

新型コロナウイルス感染症拡大により活動が制約されている中で子ども達の夏休みを応援し、森林について関心を持っていただくため、オンライン教室「森の教室」を初開催しました。当日は、ビデオ会議システムZoomを使い、低学年版、高学年版とそれぞれ実施。各回約10名の皆さんにご参加いただきました。



緑の募金ご協力をお願い

緑の募金は、地域や学校の緑化活動や、未来を担う子どもたちの森林環境教育などに使われています。皆様のご協力をお願いいたします。



●郵便振替や銀行振込で

どこでも、誰でも募金ができます。

1. 郵便振替

00990-1-83253

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

2. 銀行振込 京都銀行府庁出張所

普通 3154305

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

理事長 安藤 孝夫



令和2年春募金実績

9,018,357円

ご協力ありがとうございました。

●商品購入や募金箱で

「緑の募金付き商品」を購入したり、各所に設置された「緑の募金箱」に直接募金することで、ご協力いただけます。「緑の募金付き商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事務所様も募集しています。